

質問

横田小そば・エゴマの 生産販売対策は

若月忠男 議員

町長 横田小そば・エゴマ生産・
販売支援を拡充していく



問 在来種である横田小そばの採種圃場面積拡大と、地元栽培面積拡大についての指導対策の必要性の考えは。

答 近年の健康志向の増加による日本古来のそば食への関心、また新聞、テレビ等で常に全国発信され、奥出雲そばの価値観が非常に高まっている。横田小ソバは、食の人気コミック雑誌「美味しんぼ」の日本全県味めぐりで紹介され、全国的に話題となった希少な付加価値の高いソバである。生産面積拡大については、生産農家の協力を得て隔離栽培できる園営開発農地を選定し団地化を形成し、少なくとも3年に一度は小ソバ種子を更

新し、均一な品種の確保を図り、そば専門店、消費者から信頼を得るソバの栽培管理の指導強化が課題である。生産農家への種子更新助成事業についても検討していく。

問 横田小ソバを知的財産として登録申請の取り組みについての考えは。

答 地域固有の地域ブランド農産品の信用を高めるためにも大切な制度であり、横田小ソバ以外の仁多米、仁多和牛、奥出雲シイタケ・マイタケも同じく検討していく。

問 エゴマのさらなる商品開発と販売ルートの開拓による有利販売については。

答 平成24年度からは市場評価の高い有機エゴマ栽培の取り組みを町内全域で実現化した。有機栽培された有利性など、付加価値の高い差別化された奥出雲エゴマであることを売り込み、さらに6次産業化の推進、販路拡大の取り組みに支援を拡充していく。奥出雲エゴ

マの会、島根えごま振興会、モーグなど関係組織と連携して、全国規模の大会開催に向けて今後検討準備をしていく。

問 合併10周年記念式典と、記念に残る行事開催計画の考えと取り組みについては。

答 合併5周年のときと同様に、その翌年度に式典や、冠イベントを行うこととし、平成26年度での企画準備、27年度の実施を考えている。

なお、開催計画につきましては、旧仁多・旧横田両町の一体化がさらに進むよう計画したいと考えている。

問 奥出雲町らしさを出して、記念事業等の開催が必要ではないか。

答 奥出雲町らしさを全面的に出しながら地域の一体化を図り、皆さんのいろいろな意見も聞きながら準備を進めていく。

問 映画・テレビロケスナップ写真と撮影場所への道路地図作成の考えは。

答 町内ロケ地を紹介す



収獲期近の横田小そばとエゴマ

るマップを現在、観光文化協会で来年度完成に向けて作成中であり、町内の観光施設や道の駅等におき、本町への誘客材料の一つとしてPRする。

問 奥出雲たたら製鉄及び横田の文化的景観地と、名所を取り入れた観光プランによる誘客の考えは。

答 全国の先進地の取り組みを調査しながら、地元をはじめ関係者の意見を聞き取り進む。

問 児童、高齢者や配偶者への家庭内暴力の対策の考えは。

答 平成26年度は地域福祉計画を策定するよう準備を進めている。